

老いも若きも男も女も武士もひょっとこも

陣屋で盆 DANCE!!

仙台 白老陣屋 から 版



抜けるような秋空が広がった10月18日(木)。陣屋資料館に海外から4名の見学者が訪れました。アメリカ、オーストラリア、スペイン、フランス出身者で構成された一団は、史跡白老仙台藩陣屋跡で行われた海外客受入れに向けたモニター事業とプロモーションビデオ撮影に参加するため来町したのです。

午前中は、資料館友の会川西会長の案内により展示を見学。その後、陣屋の人気体験企画である「よろい兜の試着」を楽しんでもらいました。

そして、午後は「盆 DANCE」による交流と、プロモーションビデオ撮影の時間でした。

時代背景のイメージは幕末。侍がアイヌの踊りの輪へ導かれるシーンから始まった撮影は、その後一気に現代へと移ります。

虎杖浜越後盆踊りやフラダンスサークル、ひょっとこ踊り白老、駒菊会、巨大パッチワークの会などの団体に一般参加の町民やモニターツアーの海外客も加わり、巨大な踊りの輪が出来上がりました。ハロウィンのように仮装した子ども達も見様見真似で盆踊りに挑戦する風景を、上空からドローンによって撮影して大団円です。

今回の企画は国籍や年齢などの違いを認め合う、多文化共生社会の姿を踊りによって表現した構成となりました。様々な芸能団体にご協力いただき試みは初めてでしたが、白老の無形民俗文化財である虎杖浜越後盆踊りを通じて、多くの方の繋がりが生まれた日となりました。

プロモーションビデオの公開開始日は、経済振興課より告知されます。是非ご覧になってください。

写真上から

< 海外モニターを資料館友の会川西会長が案内 >、 < よろいを試着して記念撮影 >、 < 林の中で模擬戦 ? >

< プロモーションビデオの撮影 >、 < リムセの輪へ誘われる侍の様子を撮影 >、 < 参加者全員が輪になって越後盆踊りを踊る >

第 144 号
(平成 30 年 11 月号)

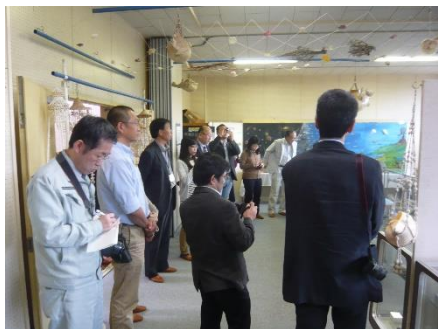
発行: 仙台藩白老元陣屋資料館
〒059-0912 白老町陣屋町 681-4
TEL&FAX 0144-85-2666

学芸員の学び合い～資料の魅力を伝えるために～

胆振日高管内の学芸員が集う研修会が、豊浦町の旧礼文華中学校を会場に、10月16日（火）～17日（水）の日程で開催されました。各自治体に大きな被害や影響をもたらした胆振東部地震のため、当初は自粛も検討されましたが、互いの交流を深める貴重な機会であったため強く開催が望まれ実現しました。

今回は「博物館の魅力を伝えよう」をテーマに、北海道博物館協会や国立科学博物館と連携。結 creation 代表の北村美香氏を講師に、博物館資料の“見せ方”のアイデアを学びました。展示資料から一点を選出して、好きな角度で撮影し、プリントアウトした写真をカードに貼ってレイアウトしました。こうして完成したのが「展示発見カード」です。写真と言葉から資料の魅力を引き出す、とても興味深い手法で、今後の体験学習などにも活かしていきたいと思います。

翌日は国の史跡であり、名勝ピリカノカにも指定されているカムイチャシなどを見学。文化財保護と活用の意義を互いに確認し合い、意気軒高のうちに解散しました。



虎杖浜の活性化にむけて

昭和51（1976）年に建設された虎杖浜地区のアヨロ鼻灯台。現在、地域の活性化に向け、虎杖浜竹浦観光連合会が主体となった観光振興の計画作りが進められています。

これまで2回のワークショップが開催されました。7月3日（火）には灯台周辺の台地を歩き、平野学芸員がアヨロの地形の特徴や遺跡を紹介したほか、苫小牧駒澤大学教授の岡田路明氏がアイヌ語地名の解説を行いました。また、9月4日（火）には、参加者がお互いにアヨロのイメージや魅力を発表し合うことで、活性化のイメージを共有しています。

灯台が建てられた岬の周辺は、縄文時代から明治にかけて様々な人々が暮らしてきたため、興味深い伝承や文化資源が豊富です。ワークショップには明治期に新潟から移住してきた漁師の子孫も参加しています。現在の虎杖浜で活躍している人、かつて暮らした人たちが、一丸となって誇るべき地域史の発信に取り組んでいます。今後の動向にご注目ください。



< 遺跡と物語が満ち溢れている虎杖浜の台地 >

「仙台陣屋かわら版14号（平成30年11月号）」

発行日平成30年10月23日（火）

発行所：仙台藩白老元陣屋資料館 担当者平野

<http://www.town.shiraoihokkaido.jp/bunka/jinya/> TEL:011-2200000

Mail: jinya@town.shiraoihokkaido.jp